

## 市民参加推進会議ワーキンググループ要点記録

|         |                              |    |    |    |    |     |    |
|---------|------------------------------|----|----|----|----|-----|----|
| 会 の 名 称 | 市民参加推進会議ワーキンググループ（第2回）       |    |    |    |    |     |    |
| 事 務 局   | 企画財政部企画政策課企画政策係              |    |    |    |    |     |    |
| 開 催 日 時 | 平成26年10月3日（金）午後5時30分～午後7時30分 |    |    |    |    |     |    |
| 開 催 場 所 | 前原暫定集会施設2階 B会議室              |    |    |    |    |     |    |
| 出 席 者   | 委員長                          | 西尾 | 隆  | 委員 |    |     |    |
|         | 副委員長                         | 浅野 | 智彦 | 委員 |    |     |    |
|         | 委員                           | 赤羽 | 里家 | 委員 | 古畑 | 昭郎  | 委員 |
|         |                              | 杉本 | 早苗 | 委員 | 福井 | 高雄  | 委員 |
|         |                              | 五島 | 宏  | 委員 | 田中 | 留美子 | 委員 |
| 欠 席 者   | 委員                           | 川口 | 亜子 | 委員 | 坂爪 | 智子  | 委員 |
|         |                              | 川合 | 修  | 委員 | 河野 | 律子  | 委員 |
| 事 務 局   | 企画政策課長補佐                     | 中田 | 陽介 |    |    |     |    |
|         | 企画政策課主任                      | 工藤 | 真矢 |    |    |     |    |
|         | 企画政策課副主査                     | 津田 | 理恵 |    |    |     |    |

### 【ワーキンググループ結果】

#### 1 無作為抽出による公募委員の選出

第4期の提言を受けて、第5期は無作為抽出による公募委員の選出が実施された。若年層や女性の参加が少ないという議論があったため、10代から30代の女性に絞って、無作為抽出を行った。この効果についても提言で触れたいということで、意見を伺った。

（無作為抽出で委員に選出された委員の感想）

- ・ 市民参加推進会議委員になるまでは市報の中でも自分に関係する記事のみを読んでいたが委員になってからは責任もあるし、興味をもつようになり、他の記事も読むようになった。会議で審議されたことを普段の生活で意識するようになった。また、実家の所在する自治体と小金井市を比較して考えるなど市政に興味をもつようになった。よいきっかけを与えてもらったと思う。
- ・ 周囲の子育て中の父母にも行政に関心を持っていたり、いろいろな意見を持つ人が多いが、意見をだす場所がないのかなと思う。
- ・ 現在赤ちゃんを育てている世代は自分とはまた異なる意見を持っていると思うのでその人たちの意見も聞いてみたい。

（西尾委員長より）

- ・ 市政に関心を持たれたのはすばらしいと思う。ターゲットを絞った無作為抽出は効果があったと報告の部分に書きたい。

## 2 小金井市市民参加推進会議提言準備のための覚え書きについて

(資料1を用いて浅野副委員長より説明を行った。)

- ・資料1がそのまま提言になるのではなく、提言をつくる際の議論のための論点整理である。
- ・「公民館北分館を若者の第三の学びの場にしよう準備会」を見学して、積極的に参加しようとする若者が存在することがわかった。
- ・3で単発型・短期と、総合型・長期として参加形態の分類を行った。
- ・(3(1)「勉強・学習の場の充実」に関して)「公民館北分館を若者の第三の学びの場にしよう準備会」で「消しゴムのかす問題」(若者が利用した後、机上に消しゴムのかすが放置されていることについて年配の利用者が不快に思っているとのこと)が挙がっていた。公民館の職員等はこのような問題を通して公民館をどう使っていくかという公共性の問題に誘導できるのではないかと考えているようだ。特定イシューを具体的に解決することを繰り返し、大きな枠組みでの参加について学習していくことができる。

(西尾委員長より説明)

- ・大事なものは具体的な提案である。
- ・5の提案内容の実現の時期とは、それぞれ短期は1～2年、中期は3～5年、長期とは6～7年である。
- ・提案をいくつ載せるかであるが、上記実現時期の3種類に対し、それぞれ1つずつの提案を載せるのはどうか。

(意見)

- ・第3期の提言に大学との連携についての記載がある。若者のグループ分けをもう少し簡素化して、学生(高校生・大学生)、社会人(単身社会人、子育て世代)、市の職員の3種類に分けたらどうか。埼玉県川越市や秩父市、東大和市でも、若者と市の職員が交流して活動を行っているので、まちづくりの活動で中長期的に若者に協力してもらおうとよい。また、若手職員は行政内部でイベントに参加するのではなく、市民の活動している現場で参加するとよい。中高生なら短期的、若者では中長期的としたらどうか。また若者以外に関連するようなものがあれば、それについての提言もできるのではないか。
- ・漠然と若者一般とするより、考え方として分類を提示したもので、提言で若者の世代分類をどのように扱うかは別問題である。
- ・市の多くの部署で何らかの市民参加等の取組を実施している。ほとんどの場合は人を出してもらう時に依頼するグループがあるが、このような分類があると、依頼先を考えるとときに既存のグループに何があるかを考える参考になる。
- ・若者の中でも継続的に市に住もうとしている人、実際に生活している人に参加してほしい。
- ・そのような人と同時に「ふわふわ」している若者(一時的に市に住んでいる人や、生活基盤を確立していないような人)をどう取り込むかというのも大事である。

- ・提案自体を A4 用紙の半分くらいにすると、印象深く伝えられると思う。最後に全部の委員の意見を掲載することを考えている。
- ・先ほど話に挙げた市で生活している人、住んでいる人とは子育てしている人だと思う。前期の提言で子育て中の若い人が参加できるように保育士を配置することがあったが、実現するまで提言に入れ続けるべき。子育て中の父母が参加しやすいよう何らかの手を打つべきだと思う。
- ・「小金井市子ども・子育て支援に関するニーズ調査」の中に学習スペースの要望が 8 件ある。これから庁舎や施設の計画をつくるときに、若者の枠を設定し、参加してもらうべきである。大学の事務局と連携し、掲示板に告知し大学生に来てもらう。
- ・ポスターの掲示はあまり効果がなく、授業で先生が参加するように伝えると参加するようだ。
- ・先生のほうから直接生徒を連れてきてもらうよう依頼すると参加してもらえる。参考例で東洋大学は市政への協力として埼玉県鶴ヶ島市の小学校に老人福祉センターを併設し維持管理等、全面的に協力している。
- ・参加、協働、市民活動の区別では、この話はどちらかという市民活動のようであるが、市民参加とは市政に関しての提案のようなものか。
- ・(事務局) 事務局が想定している参加とは、市政に対しての直接的な参加である。
- ・子どもが卓球を習っているのだが、参加者の中学生と小学生の関わりがあり、卓球以外にも中学生が小学生に勉強や学校生活のさまざまなことを教えてくれる。そのようなかたちで大学生が勉強を教える仕組みがあるとよいと思う。それには大学生への手当てや場の提供が必要だと思う。
- ・雑学大学は会場費、講師謝礼、参加費を「3 ただ」で実施しているようだが(田中委員より現在は会場費が必要なため資料代として 100 円徴収しているとのこと) 学校ではどうか。
- ・放課後子ども教室で放課後にお母さんたちが手芸等を教えている。少しお礼をもらっていると聞いたことがある。
- ・市民は行政のように予算がなくても無料でできる方法を探すようだ。
- ・市民討議会を定期的を開催するのがよいと思う。イベント名を「市民討議会」ではなく、ハードルを下げる工夫が必要である。子どもや若者が自分たちで話し合う場にしたい。
- ・漠然とではなく、特定のテーマを設定したほうがよいと思うが、テーマをどのように選んだらよいか。
- ・複数選定しておき、その中で人が集まりそうなものを選択する。
- ・テーマの選択も市民参加で行うとよい。
- ・具体的な計画(図書館、施設等)において自分たちの意見が反映されることを担保すべき。実現する仕組みを取り入れなければ参加しない。行政から、「これからこのようなことをやる」というような情報をだしてほしい。

- ・そのようなものと、また、「これにものを言いたい」というものと2つがある。
- ・公民館運営審議会等で、そのようなことは審議していないか。
- ・公民館では年に一度利用者懇談会がある。また、公民館運営審議会では先ほどから話題になっているような現場からの発想はあまり審議にあがらないと思う。
- ・それとは異なる仕掛けで意見を聞く会にしたい。コアになるターゲットのグループがあるとよい。
- ・貫井北センターの若者コーナーは使い方のルールを利用者が自主的に決めていくということになっている。
- ・例えばパブリックスペースの使い方等、現状を職員から説明してもらうツアーをするのもおもしろい。ごみ問題や待機児童の問題等について講座や実際の現場訪問等も入れて、長期的に考えるのも可能だと思う。
- ・パブリックスペースのあり方について高校生、大学生くらいの若者を対象として市民討議会を行ったら、参加者が集まると思う。それを最初の入口として、最終的には次の基本構想の中に若者の意見を反映させるためのワーキンググループ等を行う。市民討議会→学習のプロセス→基本構想のステップでやっていくとよい。
- ・最初は「あれがほしい」「これがほしい」という意見が多くでてくると思われるが、回数を繰り返し、予算等の情報を提供することにより意識が上がっていく。市民参加の裾野を広げるためには市民討議会等を繰り返し続けるべき。
- ・長期総合計画についての具体的な提案として、章立てとしては「若者」という項目はこれまでなかったようだ。章立ての中に「子育て」はあると思う。「子育て」等の若者が深く関わる項目の中で「若者委員会」のようなものを提案することはできる。
- ・市が所有する建物の面積がこれから縮小していくかもしれないそうだが、図書館や公民館が縮小されるとなると、危機感を感じ参加する若者がでてくるかもしれない。長期総合計画に若者についての内容を入れる必然性はあるので、提言に入れてもよいと思う。
- ・次期の市民参加推進会議で具体的に考えてもらってもよいと思う。長期総合計画はかなり総合的なものなので、あまり詰められないかもしれない。また、個別計画を束ねる調整ができる視野の広い人が長期計画審議会の委員なので、長期総合計画をつくる際に常に若者の視点を意識するということはあると思う。20代の委員を一定の割合で選出するクォータ制等がある。
- ・意識しないと忘れられてしまうので、前期の提言で提案されたことの実現状況の確認についてを第6期への申し送りに入れたい。
- ・意見・提案シートについて、各部局で取扱が異なっているようだが、各審議会にどう伝わっているのか。どのような段階なのか。
- ・(事務局) 意見・提案シートについては庁内への周知の準備をしている。統一的な取扱をするというよりは各審議会の独立性を尊重したいと考えている。

- ・市民参加推進会議は今までは手続きの審議が多かったが、これからは実際の運用について、やるが増えていくと思う。
- ・過去に実施された市民討議会や青少年議会等がどのような仕組みだったのかを表現できるとよいと思う。
- ・市民参加を進めるときに配慮する事項についてのガイドラインを提言に添付したい。例えば、「例示として市民討議会を開催する」というようなものがガイドラインの一つの項目として入ってくるイメージである。
- ・誰が主催してやるのかを詰めなければならない。速やかに取り組みやすいのは市民参加推進会議が主催する方法である。

(今後について)

- ・次回、11月14日の本会議で提言の骨格をまとめていく。委員長、副委員長と事務局で提言案をつくるので、委員から追加の提案があれば事務局にメール等で連絡する。